
花蓮の赤は肥えた夕風

愛威慈郎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

花蓮の赤は肥えた夕風

【Nコード】

N2171K

【作者名】

愛威慈郎

【あらすじ】

友達。僕を知らない君をそう呼ぶ。

知ってたんだ

ずっと

君と僕はひとつだって同じものはないんだって

それでも

苦しい呼吸だけが

君と僕をひとつにした

この街は

いつも僕を黒白の世界にいざなう

アイツが僕を染めた夜

君がアイツを染めた夜

例えば死にたい衝動にかられた時

僕は正常だと思い知るんだ

知ってるさ

君は僕の親友なんだ

だから君は僕のことを

少しだって理解しじゃない

そのことで僕は少し苦しんで

それでいてホッと安心するんだ

無理して笑ってる

君はそう言って困ってみる

そんな事ないよ

そう言って僕は笑ってみる

僕の表情を決めるのは君だ

滑稽なのは笑顔だけなのか

こんな綱渡りの安寧は

僕にしてみれば死ぬ理由にすらなる

君なんか嫌いだ

そう言つて僕は泣いてみる

君が眠るそばで

幾度も喉にナイフを添える

例えば君への殺意に心を奪われた時

僕は正常だと思ひ知るんだ

頼むからこれ以上

僕に近付かないでよ

きつと磁石のように引き寄せられる

君は僕の手握られた凶器を知らない

どうしたらいい

こんなにも

お前が必要なのに。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2171k/>

花蓮の赤は肥えた夕風

2010年10月10日02時23分発行